

第3回淡路島総合観光戦略策定会議(11/25)における修正意見への対応

修正意見①

- ・ 今回のKPIが「量」ではなく「率」の目標になっている。KPIはパフォーマンスのインジケータであって、そもそものゴールが明確でない。「量を変えずに比率を変える」のであれば、数を決めないと比率が決まらない。量を設定することが必要(量があつての比率)。
- ・ KPIでは消費額が一番に来るのではないか。
- ・ 住民・観光客の満足度は相対的なもの。観光客が減れば、ゆとりが生まれ、観光客の満足度が上がる。パフォーマンスとしてのインジケータではあるが、ゴールではないのでは。

【対応】(資料4 P21~24)

戦略素案・本編(資料4)「第3章 本戦略のめざすところ 5 評価指標」において反映。

- ・ 本戦略の進捗を確認する評価指標として、「観光GDP」、「宿泊者の発地別比率(近畿圏以外の宿泊者比率)」、「観光客の消費単価と域内調達比率」、「観光客の満足度」、「観光GDPの域内比率(シェア)」、「(淡路島住民の)県民一人当たり所得」、「住民満足度・観光理解度」を定め、これらに目標数値を定め、それぞれのKPIとする。
- ・ 「観光GDP」をKPIの最初の項目として記載する。
- ・ 「観光GDP」の増大だけでなく、対として淡路島住民の満足度も向上させていくことが持続可能な観光を進めていくうえで重要であることから、KPIとして設定する。

修正意見②

- ・ 「ひょうごテロワール旅」は、県全体の施策であり、兵庫デスティネーションキャンペーン期間だけではなく、今後も継続していくことであり、表現を取り入れてほしい。

【対応】(資料4 P18)

戦略素案・本編(資料4)「第3章 本戦略のめざすところ 3 推進戦略」において反映。

- ・ ひょうごテロワール旅にふさわしい地域の風土(テロワール)を活かしたコンテンツづくり

修正意見③

- ・ 今までの戦略骨格案にかかる策定会議の議論経緯を踏まえた上で、記載をしてほしい(「戦略骨格案」に記載されていた施策が記載されていない)。

【対応】(資料4 P18~21)

戦略素案・本編(資料4)「第3章 本戦略のめざすところ 2 基本戦略(サステナブル戦略)、3 推進戦略」に追記。